

平成28年産麦類 作況試験生育状況(古川農試)[3月31日調査結果]

1. 供試品種および耕種概要

・ 供試品種

	早生	中生
六条大麦	シュンライ	ミノリムギ
小麦	あおばの恋	シラネコムギ ゆきちから

- ・ 播種期：10月20日
- ・ 播種量：0.9kg/a (ドリル播き, 条間25cm)
- ・ 施肥：尿素磷加安777号
(N : 0.8kg/a, P₂O₅ : 0.8kg/a, K₂O : 0.8kg/a)
- ・ 土づくり肥料等：粒状苦土石灰 6kg/a
- ・ 排水対策：明渠, 暗渠及び弾丸暗渠2.0m間隔
- ・ ほ場条件：沖積埴壤土 転換初年目(前作水稻)

2. 気象概況[10月上旬～3月下旬](表1, 図1～3参考)

- ・ 平均気温は, 10月, 1月中旬及び2月上旬を除き平年を上回って推移した。平年差+2℃以上のかかなり高い時期も数回出現した。
- ・ 日照時間は, 3月上旬がやや少なかったものの, 他の期間は平年並か多照であった。
- ・ 降水量は, 10月が少雨, 11月～12月中旬が多雨であった。12月下旬以降, 12月26日, 1月18日, 2月20日にまとまった降水があったが, 平均すると少雨傾向で推移した。

表1 気象経過(10/1～3/31)古川アメダス

	平均気温(°C)		積算降水量(mm)		積算日照時間(hr)	
	本年	平年差	本年	平年比	本年	平年比
10月上旬	14.8	-1.0	12.0	26%	82.9	196%
10月中旬	13.5	-0.2	1.0	3%	63.8	138%
10月下旬	11.1	-0.3	3.5	10%	71.1	133%
11月上旬	10.4	0.7	38.5	147%	44.2	97%
11月中旬	10.5	3.1	73.0	356%	43.4	105%
11月下旬	5.9	0.4	38.5	182%	35.5	85%
12月上旬	4.3	0.2	29.0	162%	40.7	108%
12月中旬	5.4	2.9	43.0	339%	41.4	117%
12月下旬	2.4	0.9	11.5	78%	45.3	107%
1月上旬	3.0	2.6	3.0	20%	37.0	95%
1月中旬	-0.2	0.0	36.0	277%	48.4	119%
1月下旬	-0.2	0.2	8.0	58%	44.5	91%
2月上旬	-0.2	-0.1	1.0	8%	55.4	115%
2月中旬	2.7	2.2	18.5	112%	50.4	100%
2月下旬	1.9	0.6	6.0	38%	47.6	103%
3月上旬	4.1	2.0	5.0	27%	39.5	75%
3月中旬	5.7	2.2	1.5	7%	61.9	109%
3月下旬	5.7	0.7	5.0	20%	91.5	145%

注1) 古川AMEdAS日別データから算出
注2) 平年差(比)はAMEdAS平年値との比較

3. 生育概況

1) 3月31日現在の生育状況(表2)

- ・ 高温傾向が継続し, 生育は平年より進んだまま経過している。
- ・ 茎立期は, ゆきちからを除き, 大麦, 小麦とも平年より10日以上早い。特にあおばの恋では平年より23日早い。
- ・ 主稈長は, ゆきちからを除き, 大麦, 小麦とも4月10日の平年値より長かった。
- ・ 現時点では大麦, 小麦とも具体的な障害は認められていないが, 今後の追肥, 赤かび病防除等の作業適期が早まると予想される。

2) 幼穂分化状況(表3)

- ・ 幼穂長は, 大麦, 小麦とも4月10日時点の平年値より長かった。
- ・ 大麦の幼穂長は5mmを超えた。小麦の幼穂長は早生のあおばの恋で7.8mm, シラネコムギで3.5mm, ゆきちからで3.0mmであり, 全品種で平年の4月10日時点より長かった。
- ・ 麦類生育ステージ予測シートによる予測では, 各品種の出穂期は平年より6～7日早まる予測となった。

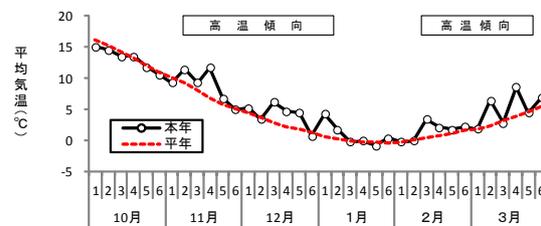


図1 半月別気象経過(平均気温, AMeDAS(古川), 2015年～2016年)

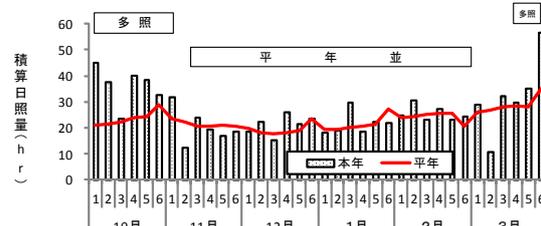


図2 半月別気象経過(積算日照量, AMeDAS(古川), 2015年～2016年)

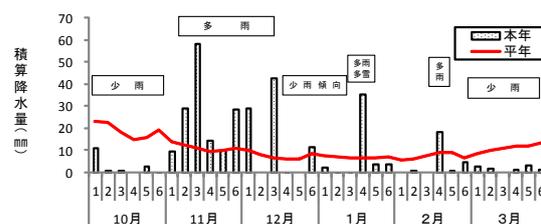


図3 半月別気象経過(積算降水量, AMeDAS(古川), 2015年～2016年)

表2 古川農試ほ場の生育状況(3月31日現在)

品種	主稈長 (mm)	(参考)	茎立期 (月/日)	
		4月10日の 平年値	本年	平年
シュンライ	39.5	21.2	3/22	4/4
ミノリムギ	32.6	20.4	3/26	4/6
あおばの恋	63.3	24.1	3/7	3/30
シラネコムギ	24.9	20.9	3/29	4/12
ゆきちから	9.0	18.9	—	4/16

表3 古川農試ほ場の幼穂分化状況(3月31日現在)

品種	幼穂長		幼穂 分化 程度	幼穂形成始期 (月/日)		減分期 予測 (月/日)	出穂期予測 (月/日)	
	本年 (mm)	平年(4/10)差 (mm)		本年	平年		本年	平年
シュンライ	7.4	0.1	X	1/27	2/3	4/17	4/26	5/2
ミノリムギ	6.5	1.3	X	2/4	2/15	4/20	4/29	5/6
あおばの恋	7.8	2.6	X	12/26	2/22	4/17	4/30	5/7
シラネコムギ	3.5	0.7	IX後～X	3/6	3/16	4/24	5/4	5/11
ゆきちから	3.0	0.3	IX後	3/8	3/21	4/25	5/6	5/12

※減分期、出穂期の予測は、古川農試麦類生育ステージ予測シート(Ver 3. 0)によるもの。

- 注1) 平年比(差)は過去5か年(「あおばの恋」は平成22年度から供試のため過去4か年)の平均値との比較。
 2) 幼穂形成始期の平年値は過去5か年(「あおばの恋」は平成22年度から供試のため過去4か年)の平均値。
 3) 幼穂形成始期: 幼穂長1mmに達した日。
 4) 茎立期: 主稈長2cmに達した日。
 5) 麦類生育ステージ予測シート(Ver 3. 0)の予測には、気象庁AMeDAS(古川)の平年値データを用いた。
 今後の気温推移については高温で推移する可能性を想定する必要がある。

[参考] 麦類の幼穂分化程度と幼穂長(mm)

品種	苞分化期	小穂分化期				穎花分化期	
	V	VI	VII	VIII	IX	X	
小麦(シラネコムギ等)	0.5	0.5～0.6	0.6～1.0	1.0～1.2	1.2～4.0	4.0～5.0	
大麦(シュンライ等)	0.5	0.5～0.7	0.7～1.5	1.5～2.0	2.0～4.0	4.0～5.0	

注) 幼穂分化程度はI～Xの10期に区分されるが、V期以前は外部形態による判定が困難であるため、省略した。
 また、厳密にはVII期は前・後期に、IX期は前・中・後期に区分される。